



新藤兼人
95歳 映画監督
伝えたい
ことがある

オカニアガッタゲンカン

監督 山本保博

蟹江一平

大地泰仁

滝藤賢

二木てるみ

語り 大竹しのぶ

若松 力

加藤忍

池内万作

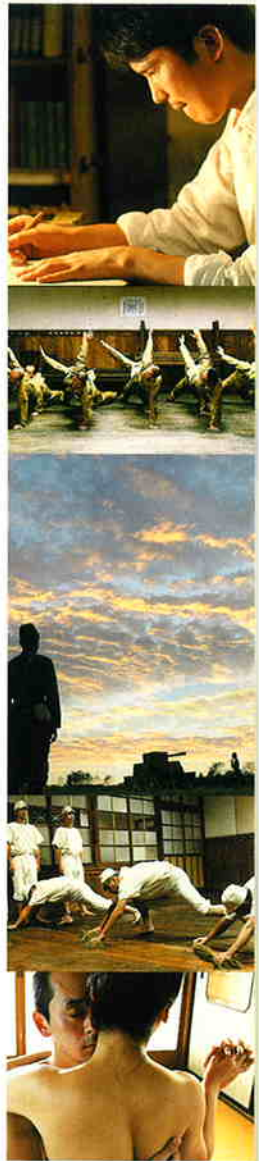
原作・脚本・証言 新藤兼人

日本映画界最高齢の監督が体験した戦争とは――

追真のドキュメンタリードラマ

www.oka-gun.com

製作：平形剛安 ● 撮影：林 晋彰 ● 海老原直 ● 照明：山下 博 ● 美術：眞 ● 録音：尾崎 聡 ● 編集：渡辺 行夫 ● 配給：バンダイ ● シネマ：パルコ ● 宣伝：WJエージェンシー ● ビデオ：エヌエスネットワーク ●



戦争はおかしくて、哀しくて、 厳しくて残酷だ。 この映画を観ればよくわかる!!

一九四四年春、召集令状を受けて、32歳で広島県の呉海兵団に二等水兵として入隊した新藤兼人は、同年六月に宝塚海軍航空隊に配属、翌年上等水兵で敗戦を迎えた。「陸に上った軍艦」は当時の様子を克明に語る証言者としての新藤をカメラが追うドキュメンタリー部分と、彼

の実体験を徹底したリアリズムで表現した再現ドラマで構成。弱兵目線で軍隊という組織の不条理さを描き、目をそむけなくなるほど辛辣でありながら、笑いもこぼれる滑稽さに満ちた作品は、脚本新藤兼人の真骨頂であるといえよう。

弱兵戦記 ● 新藤兼人

一年半の兵隊生活であったが、一年間はみっちり殴られ、精神棒をくらい、前へ支えなどあらゆる体罰をもらった。士官や下士官の中には兵隊をオモチャのように思い、殴って遊ぶヤツもいた。もともわれわれ弱兵は、彼らから見れば歯がゆい存在であったかもしれない、三十前後のシヤバの生活人だから、動作は鈍く、頭の切れも悪く、殴って蹴り倒したくなるほど目ざわりのものであったのだろう。だが、われわれも日本の兵隊だった。ケツが紫色になるほど精神棒で殴られても脱走などは考えず、命じられれば、火の中の水の中でも飛び込んでいく兵隊だった。爆弾が落ちる最中、壕の上に身をさらし、殴り殴られる兵隊であった。日本精神にあふれ、祖国のために指揮をとる立派な軍人にけちをつけるつもりはいささかもないが、お前らはクズだ、と足蹴にされた兵隊も、日本のために闘ってきた二人の日本人なのだ。多くの戦記読物がある。だが弱兵の記録はない。なぜなら、彼らは穴を掘り、殴られ、雑役に追い回されただけだからだ。そんなみじめな戦記を誰が書くか、思い出したくないのだ、戦争そのものを。



● 九四四年三月二〇日 出征当日の新藤兼人

95歳映画監督 新藤兼人とは——
日本映画界最高齢の監督である新藤兼人は一九二二年広島県生まれ。一九三四年に映画界入りして以来、今日まで実に七三年の間、映画への情熱を燃やし続けている。一九五〇年、いち早く独立プロダクション近代映画協会を設立し、インディペンデント作家として自由な映画作りを宣言。「裸の島」(60)、「生きて」(99)で二度に渡りモスクワ国際映画祭グランプリ受賞。大ヒット作「午後の遺言状」(52)は、日本アカデミー賞最優秀監督賞をはじめ数々の賞に輝いた。最新作「花は散れども」が現在準備中。二十一世紀の今もなお世界の矛盾や不合理と戦い続ける、映画界の巨人である。



陸に上った軍艦

2007年 | 日本 | 95分 | カラー | ドルビーSR | アメリカンヴィスタ1:1.85
原作/脚本・証言:新藤兼人 | 監督:山本博博 | 製作:平形則安 | 製作会社:ピクチャーズネットワーク
配給/パンドラ (Tel.03-3555-3987 www.pan-dora.co.jp) | シネマ・ディスト | 宣伝:マジックアワー

www.oka-gun.com

7月27日(日) 上映

- ①AM 10:30~
- ②PM 1:00~
- ③PM 3:00~

★ 大人 1,200円 (当日1,400円)
★ (60才以上 高校生以上) 1,000円 (当日1,100~1,200円)

上映協力券

上映協力券取扱先 ぎんざや

会場

岡山県総合福祉会館ホール
岡山市石岡町 Tel. 086-226-3501

主催/「陸に上った軍艦」岡山上映委員会
問い合わせ先/ 岡山県映画普及センター
☎.086-228-3655